合せて陰謀を企立をる由を聞き加之頃來後宗妙立院殿よりも云々の内命ありて若殿の御身の上を深く托されけれバ念々心を用ひて結城の動靜を見るに前件に逃るが如く近來や、暴威を逞ふして一藩を壓伏する勢あれば此儘捨置なバ後來由々しき君家の一大事今にして此憂を除かずんバあらずと夜に日に寐食を忘れて其事にのみ心を苦めとりけり伝又爰に岡部結城の奸黨が行ひたる曲事の大略を擧て後日の參考に供んとす去程に結城ハ其後日を逐て志を得已が威權の赫灼たる事さながら猛虎の群獸の中に在る如く一藩の士誰とて已に抵抗する者なければ此上ハ領分の人民に向つて威權の如何を試みばやと財政改革の名を唱へて領分の人民へ大儉約の令を下し廷家或ハ士藏等の壁ハ一切堅ハ相ならずと從前の白壁をば墨汁にて抹殺せしめ女結髮の職業と廢し衣服ハ絹布を用ゐると禁じ下駄ハ表附を禁ずるなど其餘の壓制いたらざる處なし其上此く儉約の御沙汰あるも尙お上にハ財政御困難あれば領分の人民たる者御遠慮申さずんバある可からずなど夫を口實にして從來御繕米とて年租覓免の田地數多ありしを悉く舊法を廢し一般通常の年貢と納めしむるなど其餘之に類する事夥多あれば商家の不景氣農民の疾苦實に大方ならず然してその變更用加せる年租ハ皆此奸黨が私するものなり加之結城ハ股肱腹心と賴む關口又右衛門小山只右衛門等を以て地方役となし其收入を横領する事其金額幾千なるを知らず又鵜飼の事などハ唯苞苴の輕重に依て裁判し敢て理の曲直に依らず彼關口又右衛門は其頃お茶壺と綽名せり其故ハ賂賄の金を得るごとに之を茶壺に入れ茶の如く仕立て結城の許に贈ること屢々あるを以てなり其他富商の商人農民へは名字帶刀を許し其報ひに金錢を貪ること實に夥多し故にそれが附庸の小吏に至る迄皆過分の金錢を貯蓄たり結城黨の暴政既に此の如くなれば人民の苦情ひとかたならず密に降家宗兵衛方に至りて哀訴する者數と知らず宗兵衛は之を憂ひて常に政堂に於て結城が奸を責めその暴政を諫する事度々なれど結城は諫を拒むの智非を飾るの言に富たる者殊に大奸ハ忠に似たりの古語に違ハぬ厚顏にハ結城を二なき者と思ハれ飽迄寵愛仕玉ふ事あれば宗兵衛の諫論用られざるのみか果ハ政務に參與する事をさへ免ぜられしかバ其後ハ只家にのみ蟄居て密に政治改良の術を求め深く心を痛め